

様式第二号の八(第八条の四の五関係)

(第1面)

産業廃棄物処理計画書

令和6年4月16日

福井県知事 殿

提出者

住所 福井県大野市篠座65号98番地2

氏名 株式会社泉建設 代表取締役 高畑しず子

(法人にあつては、名称及び代表者の氏名)

電話番号 0779-66-1108

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	株式会社泉建設
事業場の所在地	福井県大野市篠座65号98番地2
計画期間	令和6年4月1日から令和7年3月31日

当該事業場において現に行っている事業に関する事項

①事業の種類	D06 (総合工事業)
②事業の規模	元請工事高 191,320千円 (前事業年度実績)
③従業員数	12人
④産業廃棄物の一連の処理の工程	●がれき類(コンクリートがら、アスファルトがら等) 中間処理業者(破砕)へ委託し再生資源化する。●木くず、廃プラ 中間処理施設(破砕)へ委託する。破砕処理後木材チップ、燃料に再資源化する。

(日本産業規格 A列4番)

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)

●産業廃棄物処理責任者

処理計画作成、委託業者選定、マニフェスト確認、交付。

各現場担当者に指導・教育を実施する。

●工事部

処理計画作成、マニフェスト確認、交付、委託契約、マニフェスト管理

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状	前年度(令和5年度) 実績		
	産業廃棄物の種類	別紙①の通り	
	排出量	〃	t 1,746.935 t
	(これまでに実施した取組) コンクリート、アスファルト廃材、木くず等、分別する際に、土砂、ごみ等の異物が混入しないよう排出する。		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	別紙①の通り	
	排出量	〃	t 1,650.00 t
	(今後実施する予定の取組) 上記事項に加えて工事施行内容によっては、汚泥の排出も念頭に置き、排出量を抑制できるように工程管理に努める。 公共工事が主なので大幅排出減量は難しい。		

産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) がれき類の形状や種類ごとに分別し、再生資源化施設に運搬処理している。
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 上記事項を徹底すると共に従業員に廃棄物の分別管理に対する意識を高めて貰う。

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項			
①現状	【前年度（ 5 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	-	-
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	- t	- t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	-	-
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	- t	- t
	(今後実施する予定の取組)		
自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項			
①現状	【前年度（ 5 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	-	-
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	- t	- t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	- t	- t
(これまでに実施した取組)			
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	-	-
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	- t	- t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	- t	- t
(今後実施する予定の取組)			

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

①現状	【前年度（ 5 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	-	-
	自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行った 産業廃棄物の量	- t	- t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	-	-
	自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行う 産業廃棄物の量	- t	- t
	(今後実施する予定の取組)		

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

①現状	【前年度（ 5 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	別紙②の通り	
	全処理委託量	t	t
	優良認定処理業者への 処 理 委 託 量	t	t
	再生利用業者への 処 理 委 託 量	t	t
	認定熱回収業者への 処 理 委 託 量	t	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処 理 委 託 量	t	t
	(これまでに実施した取組)		

②計画	【目標】	
	産業廃棄物の種類	別紙②の通り
	全処理委託量	t
	優良認定処理業者への 処 理 委 託 量	t
	再生利用業者への 処 理 委 託 量	t
	認定熱回収業者への 処 理 委 託 量	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処 理 委 託 量	t
(今後実施する予定の取組)		
※事務処理欄		

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3)④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「—」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

第2面 別紙①

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

【前年度（令和5年度）実績】				
産業廃棄物の種類	がれき類	木くず	汚泥	廃プラスチック類
排出量	1,730.96 t	10.44 t	0 t	5.535 t

【目標】				
産業廃棄物の種類	がれき類	木くず	汚泥	廃プラスチック類
排出量	1,643.00 t	5.00 t	0 t	2.000 t

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

【前年度（令和5年度）実績】				
産業廃棄物の種類	がれき類	木くず	汚泥	廃プラスチック類
全処理委託量	1,730.96 t	10.44 t	0 t	5.535 t
優良認定処理業者への処理委託量	0 t	0 t	0 t	0 t
再生利用業者への処理委託量	1,730.96 t	10.44 t	0 t	5.535 t
認定熱回収業者への処理委託量	0 t	0 t	0 t	0 t
認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処	0 t	0 t	0 t	0 t

【目標】				
産業廃棄物の種類	がれき類	木くず	汚泥	廃プラスチック類
全処理委託量	1,643.00 t	5.00 t	0 t	2.00 t
優良認定処理業者への処理委託量	0 t	0 t	0 t	0 t
再生利用業者への処理委託量	1,643.00 t	5.00 t	0 t	2.00 t
認定熱回収業者への処理委託量	0 t	0 t	0 t	0 t
認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処	0 t	0 t	0 t	0 t